

(統計史料でみる明治・大正期【その1】附録2)

太政官政表部門の所在地

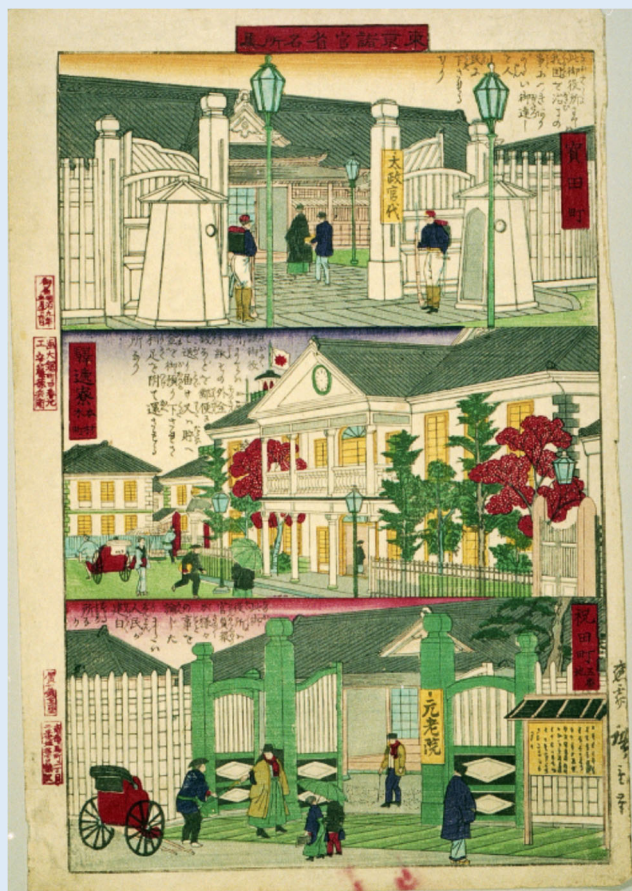
奥積 雅彦（総務省統計研究研修所教官）

【所在地の変遷】

明治初期における太政官政表部門（総務省統計局のルーツ）の所在地の変遷を調べましたので、紹介します。

時期	所在地に関する情報
(太政官政表部門創設前)	
明治2年(1869年)	明治天皇東京滞在中、太政官は東京に移転することとされ、皇城内に置かれる。
(太政官政表部門創設後)	
明治5年(1872年)3月	西の丸下に庁舎を造営
明治6年(1873年)5月5日	皇城の火災により、多くの公文書類もろとも、太政官庁舎は焼失。即日、赤坂離宮が仮皇居と定められたが、太政官については、馬場先門内の旧教部省(きょうぶしょう)庁舎を活用することとなり、同庁舎に太政官代が設置された。
【参考】政表課誌 明治6年(1873年)5月5日	皇城火アリ…旧教部省庁ヲ以テ太政官代トセラル政表課從テ移ル(NDL13コマ)
【一口メモ】 歌川広重(三代目)が明治9年(1876年)に作成した木版画「東京諸官省名所集(太政官所・駅通寮・元老院)」図1は、郵政博物館HPで解説文とともに公開されています。 https://www.postalmuseum.jp/collection/genre/detail-161578.html	
明治10年(1877年)8月	太政官を赤坂仮皇居内に移転。「万機を親裁」する天皇のお住まいと太政官庁舎との間に距離があるのは不都合であるとして移転)
【参考】政表課誌 明治10年(1877年)8月15日	太政官代ヲ赤坂仮皇居内ニ移サル(NDL52コマ)
明治11年(1878年)6月	木造西洋式2階建ての太政官庁舎が仮皇居内に新築。(内閣制度発足後も明治18年(1885年)から明治22年1月まで内閣庁舎として使用。)
【参考】政表課誌 明治11年(1878年)9月11日	政表課ヲ太政官代ニ移サル(NDL55コマ)

図1 歌川広重 作「東京諸官省名所集(太政官所・駅通寮・元老院)」



【画像】郵政博物館提供

(注1)【参考】を除き、国立公文書館デジタルアーカイブに所収の「太政官新築図正面」(図2参照)(明治10年(1877年)11月、工部卿伊藤博文が太政大臣三条美実に提出した太政官庁舎新築の図面)の説明文をベースに作成*。

<https://www.digital.archives.go.jp/gallery/1800000008>

*作成に際しては、国立公文書館デジタルアーカイブ所収の太政類典・第二編の「皇城炎焼ニ付赤坂離宮へ御立退」、「太政官代ヲ馬場先門内ニ定ム」、「赤坂離宮ヲ仮皇居トス」(以上、明治6年)、「太政官ヲ赤坂仮皇居内ニ移ス」(明治10年)も確認。

(注2) 井上探景が作成した赤坂仮皇居及太政官真景は、図3参照。赤坂仮皇居の地図は、図4参照。

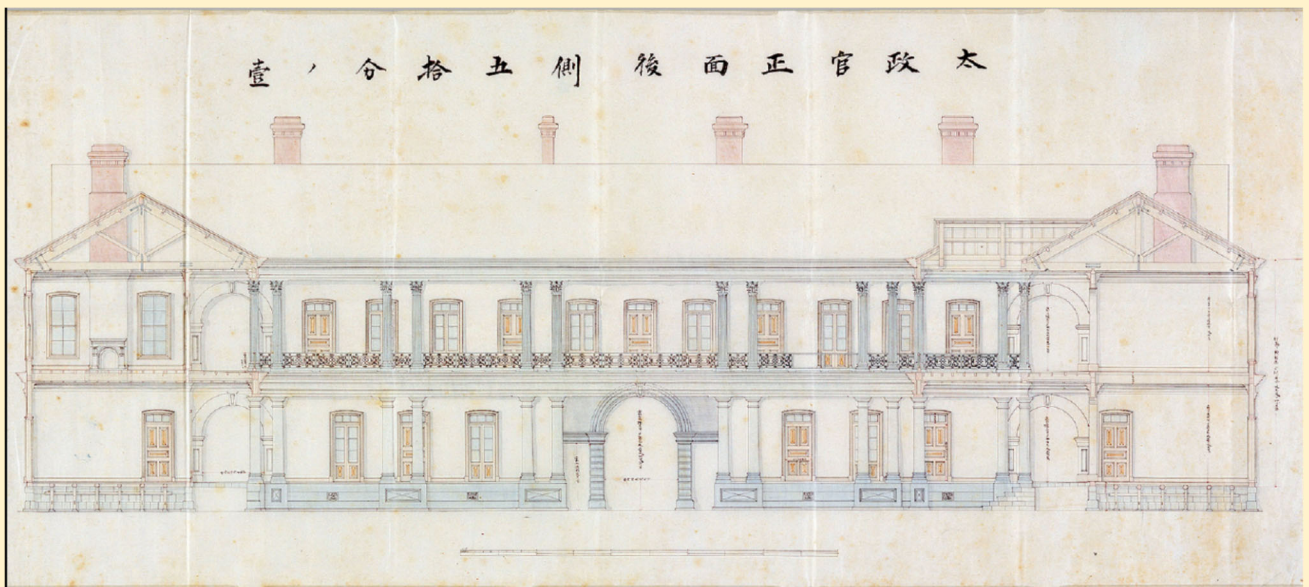
(注3)【参考】は、「政表課誌」のうち、太政官政表部門の所在地に関連する記事を抜粋したもの。※表中かっこ書きにNDL*の該当コマを表示。*国立国会図書館デジタルコレクション(※国立国会図書館/図書館・個人送信限定)で閲覧可能。

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3023636>

(注4) 明治初期(明治14年の統計院創設前)における太政官政表部門の組織の変遷については、統計局HP>統計図書館・統計相談>(統計図書館コラム)2021年以降のコラム>【雑学編】No.1001「太政官政表課の設置時期」の【別記】参照。

<https://www.stat.go.jp/library/pdf/column1001.pdf>

図2 太政官新築図（国の重要文化財）



【画像】国立公文書館デジタルアーカイブ

図3 井上探景 作「赤坂仮皇居及太政官真景」



【画像】筆者所蔵

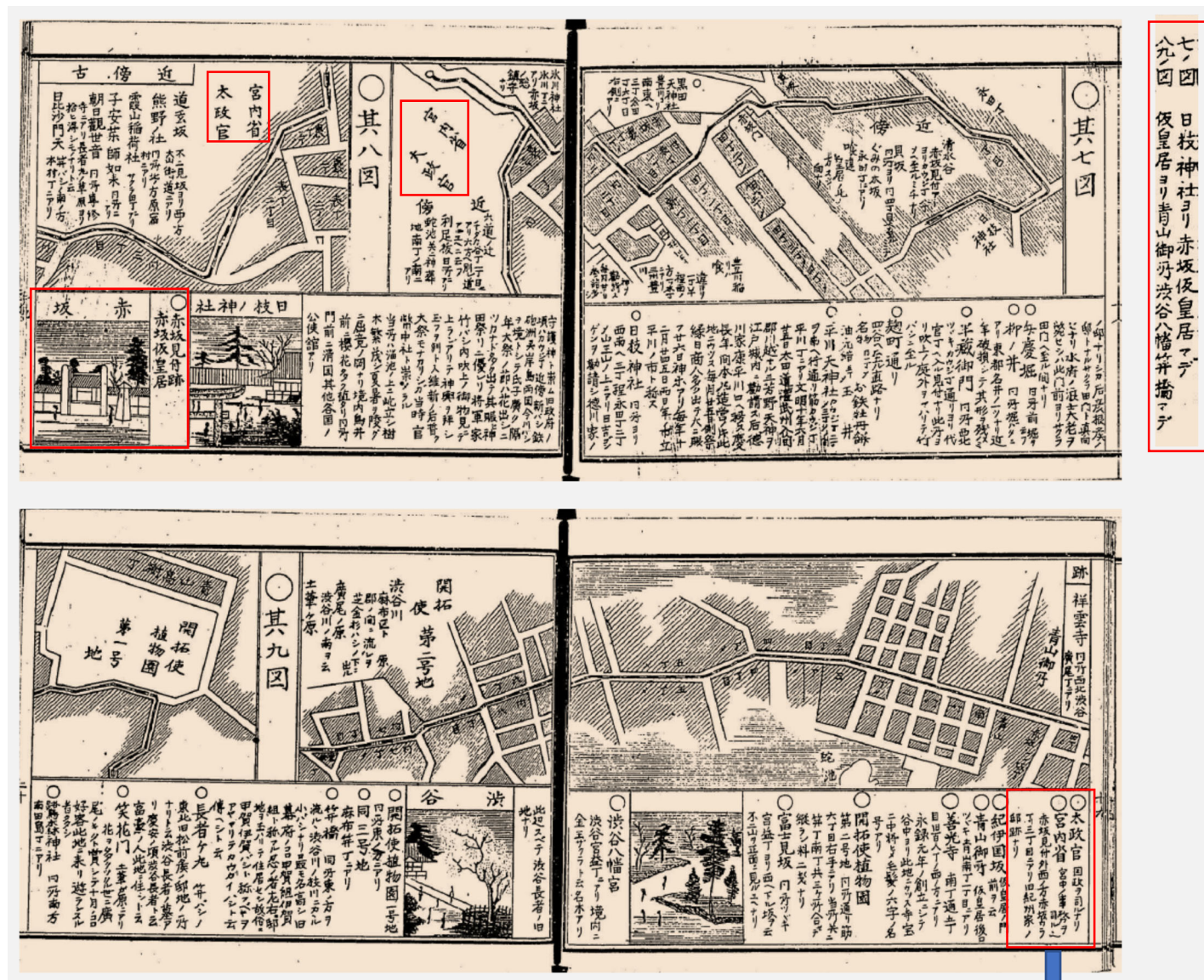
【一口メモ】

赤坂仮皇居内に新築後の太政官の画と考えられます。画像をインターネットで探索したところ、たまたま、千代田区神田神保町のギャラリーで販売されていたので、思わず購入。衝動買いです。

ちなみに、井上探景 作「赤坂仮皇居及太政官真景」は、早稲田大学図書館古典籍総合データベース（精細画像（PDF）あり）、東京都立図書館HP（解説文あり）などのサイトでも公開されています。

図4 「改正東京名細記：一名・独歩行」(明治22年出版)

【画像】 国立国会図書館デジタルコレクション



【一口メモ】

赤坂御所の所在地は、現在の迎賓館赤坂離宮のある場所です。

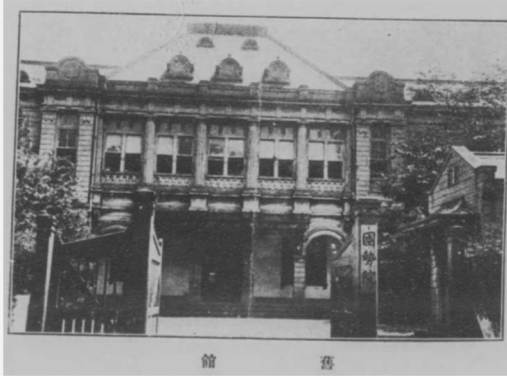
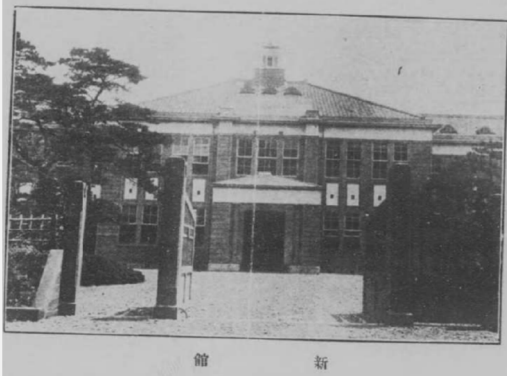
【赤坂御所の太政官庁舎から現在の庁舎（新宿区若松町）に至るまでの動き】

太政官政表部門は、明治14年(1881年)太政官統計院となり、明治17年7月麹町区永田町に移転。明治18年1月宝田町に移転。同年12月の内閣制度発足後、統計院は内閣統計局となり、明治42年に麻布庁舎に移転。その後、国勢院、内閣統計局など累次の組織再編を経て、昭和16年(1941年)4月に月島分庁舎完成。内閣統計局月島分庁舎が昭和19年9月目黒区衾町の東京都立高等学校に疎開。昭和21年2月に庁舎の一部及び集計機械を焼失。その後、GHQからの働きかけにより、同年12月若松町に庁舎を移転。昭和22年内閣統計局は総理庁統計局となり、昭和23年7月統計局庁舎本館事務室落成。昭和24年総理庁統計局は総理府統計局となる。昭和43年(1968年)から現在の庁舎を使用(統計局は昭和59年から総務庁、平成13年から総務省に帰属)。

【参考資料】「政表課誌」、「統計院誌」、「太政官沿革志二十九」「国勢院第一部」、「総理府統計局八十年史稿」、「120年のあゆみ」(前掲)など

【付録】明治 42 年以降の庁舎の画像

■麻布庁舎

(1909 年) 明治 42 年	5 月 麻布区富士見町の元内務省痘苗製造所跡地に移転
国勢院旧館（旧内閣統計局庁舎）	国勢院新館（旧臨時国勢調査局庁舎）
	
館 舊	館 新

【画像】「国勢院第一部」大正 10 年（1921 年）11 月発行

■若松町庁舎

(1946 年) 昭和 21 年	12 月 牛込区（現在の新宿区）若松町に 庁舎を移転	(1968 年) 昭和 43 年	7 月 新宿区若松町の同一敷地内の新庁 舎に移転
若松町旧庁舎		若松町新庁舎 （総理府第二庁舎 → 現在の総務省第二庁舎）	
			
【画像】総理府統計局「総理府統計局八十年史稿」		【画像】総務庁統計局・統計センター「120 年のあゆみ」	

【画像】総理府統計局「総理府統計局八十年史稿」

【画像】総務庁統計局・統計センター「120 年のあゆみ」

【あとがき】

今回の調べもので「総理府統計局八十年史稿」が Google ブックスで公開されており、「庁舎」や「移転」をキーワードとして検索することにより、効率的に該当頁にアクセスできました。それを手がかりに関連する資料の探索にも役立ちました。ただ、前掲の「120 年のあゆみ」と照合すると「月島分庁舎」については、Google ブックスで「庁舎」ではヒットしなかったもので、「月島」で再検索したところ該当頁にアクセスできました。今回の調べもので関連資料と照合しながら検索のキーワードを工夫することも大切であると実感しました。また、所在地の情報は、「総理府統計局八十年史稿」や「120 年のあゆみ」などでは把握しきれない面もあり、「政表課誌」、「統計院誌」、「太政官沿革志二十九」、「国勢院第一部」などの原典を参照して初めて判明するものもあることを実感しました。

ちなみに、Google ブックスで公開されている「総理府統計局八十年史稿」の画像をみると、そのソースが慶應義塾大学図書館の蔵書であることが分かりました。調べたところ、慶應義塾は、2007 年に Google と連携し、慶應義塾図書館の所蔵する蔵書で公開可能なものをデジタル化し、Google ブックスを通じて公開することに合意したことに端を発していることが分かりました。このサービスは、国立国会図書館デジタルコレクション、国立国会図書館遠隔複写サービス、個人向けデジタル化資料送信サービス^{〔注〕}などと併用することにより、非来館型の図書館の利用の恩恵を享受することができます。

〔注〕個人向けデジタル化資料送信サービスは、令和 4 年（2022 年）5 月 19 日から利用可能となりました。利用に当たっては登録が必要です。→国立国会図書館HP：https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2021/220201_01.html

総務省統計図書館（総務省第二庁舎内）は、令和 4 年度から当分の間、耐震工事の関係で、開架式の書架にある図書や電子資料のほか、マイクロフィルム、調査区関係資料のみ利用可能となります。このことも踏まえると、図書館における非来館型の利用方法の情報提供も、より一層意義があると認識した次第です。